

各教科の
授業チェック表

秋田県立聴覚支援学校 早期教育班授業チェック表

年 月 日() 幼稚部 対象幼児

題材 _____ 授業者 _____ 記入者 _____

チェック (◎・・・十分達成 ○・・・達成 △・・・要改善 /・・・設定なし)

項目	番号	項目	チェック
① 言葉やりとりを育てるために	1	幼児の表現を受け止め、気持ちや気付きを汲み、共感していたか。	
	2	幼児の気持ちに寄り添った語りかけをしていたか。	
	3	言語モデルとして、正しい文で話していたか。	
	4	新しい言葉や言い回し、手話表現を取り入れていたか。()	
	5	考える過程を大事にして、考える時間や手がかりを与えていたか。	
	6	内容を理解しているか、聞き返して確認していたか。	
	7	「どうして～」などと理由を尋ねていたか。	
	8	友達や教師とやりとりできるよう、仲介したりモデルを示したりしていたか。	
② 授業づくりの視点から	9	おもしろく、繰り返しがある内容だったか	
	10	新しい発見があり、発展性がある内容だったか	
	11	少し難しい課題を達成したときの充実感が味わえる内容だったか	
	12	幼児同士話し合う場面があったか。	
	13	保護者が幼児とのやりとりの仕方を学べる授業だったか。	
	14	授業後も繰り返し遊んだり、家庭に持ち帰って遊んだりできる題材だったか。	
③ 自立活動的配慮	15	馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。	
	16	視覚的手がかりは必要なものが準備されているか。	
	17	声量や話す速さの調整は適切か。	
	18	幼児に伝わる話し方や手話表現、身体表現をしているか。	
	19	幼児に適切な言葉遣いや復唱を求めているか。	
	20	使用する言葉は幼児の実態に合っているか。	

※本時のねらいにより今回の授業に該当する学習活動がない場合もある。その際は、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※③に関しては『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照。

【自由記述欄】

秋田県立聴覚支援学校 国語科授業チェック表

年 月 日() 部 対象児童生徒

単元・題材(教材) 授業者 記入者

チェック(「◎」…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項 目	チェック	
① 教科のねらいを達成するために	1	児童生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、児童生徒が、自ら思考する場面が設定されているかなど)		
	2	考えさせたり、気づきを促したりする発問をしているか。		
	3	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。		
	4	文を読む活動を設定しているか。		
	5	漢字や熟語の読みについて、文字や指文字での確認を徹底しているか。		
	6	言葉の意味や使い方を具体的な例文の中で確認しているか。		
	7	文章表現を根拠として内容を理解させたり考えさせたりしているか。		
	8	自分の考えをまとめて話したり書いたりする場面を設定しているか。		
	9	友達の意見を聞いたり話し合ったりする場面を設けているか。		
	10	声量や話す速さの調整は適切か。		
② 自立活動的配慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。		
	13	児童生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫		
		板書	タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
		教材	文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
	17	児童生徒に伝わる話し方をしているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)		
	18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)		
19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)			
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

チェック (◎…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項目	チェック	
① 教科のねらいを達成するために	1	児童生徒の学習意識を高め、課題意識を引き出す工夫をしているか。		
	2	児童生徒が学習課題に気付けるような発問や働きかけをしているか。		
	3	課題や問題に対して予想を立てたり理由を考えたりする活動をしているか。		
	4	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。		
	5	図や表などを活用させ、見方や考え方の指導をしているか。		
	6	学び合いを通して、児童生徒が様々な見方、考え方に触れる場を設定しているか。		
	7	学習内容の概念や要点、専門用語はしっかり押さえられているか。		
	8	課題に対する的確なまとめや自己評価、評価問題の実施などにより学習内容の定着を確認しているか。		
	9	児童生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、子どもたちが、自ら思考する場面が設定されているか等。)		
	10	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。		
② 自立活動的配慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。		
	13	児童生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫		
		板書	タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
		教材	文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
	17	児童生徒に伝わる話し方をしているか。(立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)		
	18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)		
19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)			
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

チェック (◎…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項目	チェック	
① 教科のねらいを達成するために	1	前時の振り返りをしているか		
	2	児童生徒の「問い」を生かした学習問題を設定し、明示しているか		
	3	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。		
	4	適切な資料の準備(学習課題に適したもの、大きさ、色分け、補助線等)を行い、基礎的・基本的な事項(地図、地球儀、統計、年表、歴史上の人物の絵、写真など)の定着を図る取り組みをしているか		
	5	学習内容の概念や要点(学習指導要領に示されたねらい及び指導内容。社会科用語。)は押さえられているか		
	6	児童生徒の「問い」を生かした問題解決的な学習を充実させているか (例)・資料を活用する(比較、関連付け、総合づけする)活動など ・児童生徒にとって身近な事柄や既習内容と結びつけた思考活動など ・予想や見通しを基にした調査活動など ・図表や作品にまとめる活動など		
	7	児童生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、子どもたちが、自ら思考する場面が設定されているかなど。)		
	8	既習事項を活用する機会が設定されているか		
	9	宿題の出し方を工夫して、効率よく学習を進めるようにしているか		
	10	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。		
② 自立活動的配慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。		
	13	児童生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫		
		板書	タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
		教材	文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
	17	児童生徒に伝わる話し方をしているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)		
	18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)		
19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)			
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

チェック (◎…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項目	チェック	
① 教科のねらいを達成するために	1	児童生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、子どもたちが、自ら思考する場面が設定されているかなど。)		
	2	自然の事物・現象や既習事項から疑問を引き出し、問題意識を高めているか。		
	3	学習課題(問題)の表現は、児童・生徒が予想・仮説を立てられるようなものになっているか。		
	4	実験器具の安全な使用方法や留意すべき実験手順について、理由を説明させているか。		
	5	予想・仮説に照らして結果を予測させ、見通しをもった観察・実験につなげているか。		
	6	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。		
	7	予想・仮説や考察の場面で、既習事項や観察・実験の結果等を根拠にして一人一人に思考させる十分な時間を確保しているか。		
	8	思考したことを科学的な言葉や概念を使用したり、図やモデルなどを適切に用いたりして表現させる学習活動を設定しているか。		
	9	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。		
	10	学習課題(問題)と対応したまとめができるよう、キーワードを示すなどの必要に応じた支援をしているか。		
② 自立活動的配慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。		
	13	児童生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫		
		板書	タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
		教材	文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
17	児童生徒に伝わる話し方をしているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)			
18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)			
19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)			
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

チェック (「◎」…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 /…設定なし)

項目	番号	項目	チェック	
① 教科 の ね ら い を 達 成 す る た め に	1	本時のねらい、ねらいを達成するための学習活動、評価までの授業の流れに整合性があるか。		
	2	児童生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (児童生徒が知りたい、伝えたいと思うような導入、題材、場面設定が工夫されているか。)		
	3	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。		
	4	ねらいを達成するための適切な教材の準備(学習課題に適したもの、品詞や連語の色分け、補助線、ピクチャーカード、映像、iPad、電子黒板等)がされているか。		
	5	関心・意欲・態度	①コミュニケーションへの興味・関心を喚起する学習活動が設定されているか。	
			②生徒同士がコミュニケーションをとれるような場面設定と手だてを講じているか。	
	表現・理解	話す・書く	①自分の気持ちや考えなどを伝え合う必然性のある場面を設定しているか。	
			②英語を書くときの基本的な決まりについて指導・確認しているか。	
		読む・聞く	①英語を聞く・読む(音読する)ための基本的な決まり(読み方や発音・アクセント・抑揚・区切り等)をしっかりと確認しているか。	
			②情報や要点を適切につかめるような配慮はされているか。 ③教科書等の本文の内容について、自分の感想や考えを伝え合うことができるような場面を設定しているか。	
		活動(話す・書く・読む・聞く)の視点や条件は示されているか。 4技能を総合的に活用した活動が設定されているか。		
知識・理解	①単語やイディオム・文の用法を理解しやすいように示しているか。			
	②適切な資料を準備し、題材の背景や内容・異文化等を理解しやすいように指導しているか。			
	6	辞典を活用する力を育てるような指導をしているか。		
	7	資料を読み取ったり、知識を活用したりしてまとめる力を育てるような指導をしているか。		
	8	基礎的・基本的な事項の定着を図る取り組みをしているか。(前時の復習・英作文・スピーチ・ワークシート・リーディングテスト・単元テスト等)		
	9	児童生徒のよさを認める場面を積極的に設けているか。		
	10	本時のまとめの時間を取り、児童生徒が自らの変容や課題に気づくことができる振り返りになっているか。		
② 自 立 活 動 的 配 慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。		
	13	児童生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫	板書 タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
			教材 文字カード、視聴覚教材の準備・タイミング	
	17	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)		
	18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)		
	19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)		
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

単元・題材(教材)

授業者

記入者

チェック (◎…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項目	チェック
① 教科のねらいを達成するために	1	生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、子どもたちが、自ら思考する場面が設定されているかなど。)	
	2	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。	
	3	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。	
	4	専門用語を使用しているか。	
	5	図や写真を用いて説明しているか。	
	6	教師が演示し、模倣する機会を設けているか。	
	7	いくつかの製作方法を提示し、選択させているか。	
	8	技術習得のため、十分に練習する機会を設けているか。	
	9	生徒の実態に合った治具を用意しているか。	
	10	良い例と悪い例を提示し、製品の仕上がりを比較できるようにしているか。	
	11	器機や道具を使用する際に、生徒に留意点や注意点を問いかけているか。	
② 自立活動的配慮	12	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)	
	13	机を馬蹄形に配置したり相互読話を促したりしているか。	
	14	生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。	
	15	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。	
	16	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)	
	17	提示の工夫	
		板書 : タイミング、思考の流れ、色、情報量等 教材 : 文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
	18	生徒に伝わる話し方をしているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)	
	19	生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)	
	20	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)	
21	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。		

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】

単元題材(教材)

授業者

記入者

チェック (◎…十分達成 「○」…達成 「△」…要改善 「/」…設定なし)

項目	番号	項目	チェック	
① 教科のねらいを達成するために	1	生徒の主体的な学習活動の場が設定されているか。 (自分の意見や考え方を説明、論述、議論するような言語活動を設定しているか、子どもたちが、自ら思考する場面が設定されているかなど。)		
	2	考えさせたり、気づきを促したりするような発問をしているか。		
	3	本時のまとめの時間を取り、次時の学習につながるような工夫がなされているか。		
	4	専門用語を使用した際、生徒に復唱させたり、意味を確認したりしているか。		
	5	ファイル管理やフォルダ管理について指導しているか。		
	6	製作にあたり、生徒に留意点を問いかけているか。		
	7	既習事項や他教科の内容と関連付けて活動しているか。		
	8	技術習得のための時間は確保されているか。		
	9	体裁良く作成するために余白や配置等、数値を計算させ正確さを求めているか。		
	10	工程を提示し、見通しを持って製作が進められるようにしているか。		
② 自立活動的配慮	11	授業前に補聴システムの動作確認をしているか。(マイクのON-OFF、装用位置、レベルチェック、レシーバーのON-OFF、きこえのチェック等)		
	12	机を馬蹄形に配置したり相互談話を促したりしているか。		
	13	生徒の実態や場面に応じた聴覚活用を促す場面を設けているか。		
	14	既習音、音韻数、イントネーション、リズム等、実態に応じた発音指導をしているか。		
	15	学習の参考となる教室環境の整備がなされているか。(補助黒板、既習事項等)		
	16	提示の工夫		
		板書	タイミング、思考の流れ、色、情報量等	
		教材	文字カード、視覚教材の準備・タイミング	
	17	児童生徒に伝わる話し方をしているか。 (立ち位置、口形、速さ、声の大きさ、表情、注視を求めてから話す等)		
	18	児童生徒に説明及び復唱を求めているか。(語彙の意味確認、指文字や文字で音韻を確認、年齢や実態に合った言葉遣い、文の形で話す)		
19	使用する言葉や表現は児童生徒の実態に合っているか。(語彙拡充に努める)			
20	意味理解を促すために実態に応じて手話表現を工夫し、使っているか。			

※本時のねらいにより今回の授業に該当する項目がない場合、該当欄に斜線を引く。

※自立活動的配慮には、新任者にも分かりやすいように基本的な内容も含まれている。

※②に関しては、『授業の際の自立活動的な配慮事項』(自立活動部)を参照

【自由記述欄】